News Letter

日本精神障害者リハビリテーション学会

ともに創る、ともに暮らす

- 01 日本精神障害者リハビリテーション学会 第 29 回群馬オンライン大会を開催します
- 02 群馬オンライン大会 タイムテーブル
- 03 群馬オンライン大会 プログラム紹介
- 04 群馬オンライン大会 参加案内
- 05 群馬オンライン大会 演題登録延長!
- 06 群馬オンライン大会 研修セミナー紹介
- 07 お知らせ

2022年09月発行

VOL. 60



【事務局】 〒115-8560 東京都北区赤羽台一丁目 7 番 11 号 東洋大学ライフデザイン学部 WELLB HUB-2 20901 研究室(吉田研究室) https://japr.jp Mail:japr.jimukyoku@gmail.com

01 / 日本精神障害者リハビリテーション学会 第 29 回群馬オンライン大会を開催します



日本精神障害者リハビリテーション学会第 29 回群馬オンライン大会は、「できるを増やす」から地域共生社会を創る、を大会テーマに、2022 年 12 月 10 日 (土)、12 月 11 日 (日) の 2 日間にわたり、オンラインにて開催いたします。

オンライン大会ではありますが、皆様が交流しやすい場にするため、3会場全てライブ配信とし、その内容を 1 か月程度オンデマンド配信する予定です。

最近の精神障害者リハビリテーション学会の

動きは、「できるを増やす」取り組みの展開と言えるでしょう。皆様の日頃の活動も、さまざまな理不尽な思いを抱えながら、それでも置かれた状況を整理し、取り掛かる糸口を見つけ、少しずつ困難な状況を乗り越えてきた道のりを辿っており、まさに「できるを増やす」旅と捉え直すことができます。

設立30年の節目を迎える1年前の大会ですが、 来年に予定された記念の大会へ橋渡しとするために、ぜひ皆様のお力で盛り立ててください。

${\it 02}\,/$ 群馬オンライン大会 タイムテーブル

大会1日目

時間		12月10日(土)				
9	30	9:30~9:35 開会式 9:35~10:15 大会長講演				
10	00	「メンタルプラスの時代を拓く」	10:15~11:15 一般演題①	10:15~11:15 一般演題②		
	30	10:20~12:20 大会シンポジウム 「何が障壁なのか、バリアを乗り越えるために				
11	00	一群馬における挑戦一」	11:20~12:20 一般演題③	11:20~12:20 一般演題④		
	30		11.20~12.20 一放換送	11 · 20 · 12 · 20 一		
12	00			Ţ <u>`</u>		
12		12:30~13:20 ランチョンセミナー	12:30~13:20 ミニレク①			
	30	「VR(Virtual Reality)という新しいテクノロジーを	「脳機能からリハビリを探る」	12:50~14:20 自主プログラム①		
13	00	活用したソーシャルスキルトレーニング」				
	30	13:30~14:20 教育講演 - 「大人の自閉症スペクトラム障害(ASD)の人への支援」	13:30~14:30 一般演題⑤			
14	00	「人人の日別証人・・ノドノム持合(A3D)の人・の文法」				
	30	14:30~15:20 特別講演	14:35~15:35 一般演題⑥	14:30~16:00 自主プログラム②		
		- 「表現行為だけが私を超える」	H	 		
15	00]			
	30	15:30~17:30 学会シンポジウム - 「パンデミックと精神医療・精神科リハビリテーショ	15:40~16:40 一般演題⑦			
16	00	ン; 3年の経験から育んだもの」		16:10~17:40 自主プログラム③		
	30		4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5			
17			_ 16:45~17:45 一般演題®			
17	00					
	30]		

大会2日目

時	間		12月11日(日)	
9	30	9:30~11:30 心理教育・家族教室ネットワークシンポジウム	9:30~11:00 自主プログラム④	9:30~11:00 研修セミナー 1 「退院できない理由を探すのはもうやめよう~長期在院者
10	00	「これからの心理教育の効果的な実践について考える -エビデンスからの示唆をふまえて-」		の退院支援の政策と実践」
	30			
11	00		11:10~12:40 自主プログラム⑤	11:10~12:40 研修セミナー2 「精神障害をもつ人の地域生活支援の創り方
	30	11:35~12:35 一般演題⑨		~できるを増やすと精神科医療の役割は変化する~」
12	00			
	30			
13	00	13:00~14:00 一般演題⑩	13:00~14:30 自主プログラム⑥	13:00〜15:00 研修セミナー3 「リカバリーカレッジを共に創造する」
	30			
14	00	14:05~15:05 一般演題⑪		
	30		14:40~16:10 自主プログラム⑦	
15	00	15:10~16:10 一般演題②		15:10~16:10 一般演題③
	30		_	
16	00			
	30	16:30 野中賞、IPPO賞講演会、閉会式		
17	00			
	30			

03/ 群馬オンライン大会 プログラム紹介



日本精神障害者リハビリテーション学会

第29回 群馬オンライン大会

「できるを増やす」から

地域共生社会を創る

>> 1日目

開会式 9:30~9:35

大会長 浅見隆康先生

(群馬大学健康支援総合センター)

大会長講演 9:35~10:15

演題 メンタルプラスの時代を拓く

講師 浅見隆康先生

(群馬大学健康支援総合センター)

座長 岩崎香先生(早稲田大学 人間科学学術院)

概要 大変な状況下でも自身のストレングスに 気づくことができれば、そのことが動機づけとな り困難な中を歩むことができる。私たちには、「気 づく支援」が求められている。「できるを増やす」 という視点は、自身のできているところに目を向け、「ストレングスに気づく」こととなる。 できることが増え、可能予期(バンデュラ)が強まり、社会生活を円滑に営めるようになる。

大会シンポジウム 10:20~12:20

テーマ 何が障壁なのか、バリアを乗り超える ために一群馬における挑戦

司会 長谷川憲一先生(榛名病院)

須藤友博先生(群馬県立精神医療センター)

シンポジスト

小川悦子先生(旧東村役場 保健師、現明清会)

藤平和吉先生(群馬大学医学部精神科)

山本 大先生(藤岡ダルク)

高橋健二先生(土曜学校)

村松正樹先生(群馬県立精神医療センター)

概要 「何が障壁なのか、バリアを乗り超えるために一群馬における挑戦」をテーマに、行政、若者支援、ピア先駆者、家族、医療関係者など、それぞれの場における活動を振り返り、障壁をいかに乗り越えてきたか、より良い地域社会を創る上で求められることは何か、などについて語り合う。学会は来年で設立30年となり、スローガンも「共に創る、共に暮らす」に変更された。私たちが目指してきたことは何だったか、それはどこまで実現できたか、今後何を成すべく、それを成すためにどのようなことに取り組んでいくかを話し合う。

ランチョンセミナー 12:30~13:20

共催 大塚製薬株式会社

演題 VR (Virtual Reality) という新しいテクノロジーを活用したソーシャルスキルトレーニング

講師 蟹江絢子先生(株式会社 ジョリーグッド)

座長 岩田和彦先生(大阪精神医療センター)

概要 統合失調症の治療のゴールは精神症状の改善のみならず、生活機能のリカバリーだとされている。そのためには、生活に密着したソーシャルスキルトレーニングをはじめとした心理社会的治療が有用であるが、提供できる医療者が不足しているという課題がある。VRをはじめとしたデジタル治療プログラムを用いることで、医療者の負担が軽減する可能性がある。また現在の医療の枠組みでは支援の手が届きにくい部分にアプローチすることができる可能性がある。大塚製薬株式会社と株式会社ジョリーグッドが業務提携するといったかたちで、VRを用いたソーシャルトレーニング(非医療機器)を開発した。本セミナーではそのプログラムについても紹介する。※医療関係者のみご覧いただけます。



教育講演 13:30~14:20 (動画配信)

演題 大人の自閉症スペクトラム障害(ASD)の 人への支援

講師 池淵恵美先生(帝京平成大学)

概要 ASD の人たちは小さいころから生きづらさを抱えていて、それが ASD によるものとは気づかれずに、悪戦苦闘していることが多い。しかし周囲の無理解でいじめなどにあって、屈曲してしまわなければ、成長する力はしっかり持っており、何より周囲が得意なことに気づいて引き出す環境を用意することが一番の支援になる。当日はASD の人たちの脳の仕組みで苦手なことが出てくることを説明した後で、良い上司に巡り合って元気に働いている人たちの話をしたい。

特別講演 14:30~15:20

演題 表現行為だけが私を超える

講師 萩原朔美先生(前橋文学館館長)

座長 後藤雅博先生(こころのクリニックウィズ)

概要 自分の体験を振り返ると、行為の根底に私とは何者かと言う問いがある。演劇体験も、美術の作成も、映像作品製作、あるいは文章表現も答えを探すための手段であったようだ。表現は自分を拡張させるのではないかと思っていたのだ。ところが、表現されたものが作家を離反する事を体験すると、実は表現は自分を消し去る事だと言うことが分る。そんな表現と精神の関係について話してみたい。

学会シンポジウム 15:30~17:30

テーマ パンデミックと精神医療・精神科リハビリテーション; 3年の経験から育んだもの

司会 栄セツコ先生(桃山学院大学) 西尾雅明先生(東北福祉大学)

シンポジスト

精神科病院での診療

加瀬昭彦先生(横浜舞岡病院)

福祉施設

鈴木一広先生(NPO 法人 おれんじはぁと グループホームなんがい)

オンラインを活かしたリハビリテーション プログラム (SST)

佐藤史教先生(岩手県立大学)

アウトリーチ (ACT)

渡邉真理子先生(ちはや ACT クリニック)

指定討論

川村有紀先生(仙台スピーカーズビューロー) 概要 精神障害者リハビリテーションに関わる 者たちが、新型コロナ禍の中、それぞれの立場や 状況において、どのように立ち向かってきたかを 検証し、精神障害者への支援や保健・医療・福祉 サービスの質を維持するために行ってきた工夫 などについて紹介し合い、これらの経験を下に、 今後の精神障害リハビリテーション活動の方向 を話し合いたい。

ミニレク1 12:30~13:20

講師 田川みなみ先生

(群馬県立精神医療センター)

演題 脳機能からリハビリを探る

概要 脳画像研究も脱施設化する時期ではないか。特殊な機械や解析が必要なこと、研究結果がすぐに臨床に反映されにくいこと、研究内容の理解には多量の専門用語の知識が必要なことなどが、脳画像研究の敷居を高くしている。自身も、研究結果の臨床への還元が、すぐには実現し難いことを心苦しく感じている。脳画像研究が象牙の塔から地域社会へ移行していくには何が必要か、自戒を込めて考えてみたい。

≫ 2日目

心理教育・家族教室ネットワーク シンポジウム

9:35~10:15

テーマ これからの心理教育の効果的な実践について考える-エビデンスからの示唆をふまえて-

シンポジスト

うつ病について

香月富士日先生(名古屋市立大学)

摂食障害について

上原徹先生(高崎健康福祉大学)

訪問による家族心理教育 (演者未定)

SDM (shared decision making:共同意思決定)

について

福井里江先生(学芸大学)

04 / 群馬オンライン大会 参加案内

事前参加登録期間

2022 年 8 月 1 日(月)~2022 年 11 月 25 日(金) ※銀行振込にてお支払の場合は、11 月 28 日(月) 15:00 までにお願いします。

直前・当日参加登録期間

事前参加期間終了後 12 月 5 日 (木) より大会当 日まで参加登録を受け付けます。

支払いはクレジットカードのみの取り扱いとなりますので、予めご承知おきください。

参加登録方法

インターネットによるオンライン申込となります。

オンライン参加登録フォームより必要事項をご 記入の上お申込みください。

大会参加費

参加種別 事前参加登録 直前・当日参加登録

会員 6000 円 7000 円 非会員 7000 円 8000 円

家族・当事者・学生 3000 円 4000 円

研修セミナー参加費(各セミナーにつき)

参加種別 事前参加登録 直前・当日参加登録

会員 2000 円 3000 円 非会員 3000 円 4000 円

家族・当事者・学生 3000 円 4000 円

*お申込み方法

研修セミナー1、2、3は大会 HP から 研修セミナー4は学会 HP から

抄録集冊子について

当大会では抄録集冊子を 1,000 円 (税・送料込) にてご案内しています。

抄録集をご希望の方は、参加登録申込みの際に、 申し込みください。

事前申込については、当日までに郵送いたします。 直前・当日参加については、会期後の発送となり ますのでご了承の上、お申込みください。

参加証・領収書について

11月25日までにお申し込みいただき、11月29日までに入金確認できた方には、参加証兼領収書を開催日前までに送付いたします。

直前・当日申込いただいた方には、オンライン参加情報のみメール通知をいたします。

参加証兼領収書は開催後に送付いたします。



05 / 群馬オンライン大会 演題登録延長!

演題・自主プログラムの募集期間

一般演題・自主プログラムの募集期間を 9 月 26 日(月)まで延長します。なお自主プログラムにつきましては、口演枠は目標に達しましたので、動画による発表のみ受け付けます。

皆様の応募をお待ちしております。

>> 一般演題

一般演題の発表種別

1.研究発表

精神障害者リハビリテーションの発展貢献する 新たな知見や理解、手技や手法について、論理的 に提示されるものです。

原則として研究目的、研究方法、結果、考察を含む内容での発表となります。また、総説的な内容や資料統計等の報告もこちらへご応募ください。 2.実践発表

研究発表に比べてより自由な形式で発表いただけます。精神障害者リハビリテーションの発展貢献する新たな知見や理解、手技や手法について示唆に富む事例や、先駆的、啓発的な実践を具体的に提示されるものです。

精神障害者リハビリテーションに有益と思われれば、検討中のものや失敗例でも歓迎されます。

一般演題の発表形式

口演発表(ライブ配信)あるいは動画発表(オンデマンド配信)となります。発表時間は口演発表・動画発表とも1演題につき10分となります。

※ 口演発表 (ライブ配信) は時間の都合上、発

表枠に限りがあります。申し込み順を考慮し査読の上、応募いただいた発表形式とは異なる発表をお願いする場合があります。最終的な決定は、大会長に一任願います。

演題応募資格

筆頭者は演題登録時に本学会会員であることが 必要です。

>> 自主プログラム

自主プログラムは持込企画です。一般演題と同様の倫理的な配慮は必要となりますが、自主プログラムは企画者主導の体験や交流を目的とした 90分のプログラムでもあり、最も自由度の高いプログラムです。

自主プログラムの発表形式

口演発表 (ライブ配信) あるいは動画発表 (オンデマンド配信)となります。発表時間は口演発表・動画発表とも 1 演題につき 90 分となります。

演題応募資格

筆頭者は演題登録時に本学会会員であることが 必要です。

06 / 群馬オンライン大会 研修セミナー紹介

研修セミナー1 12月11日 9:30~11:00

テーマ 退院できない理由を探すのはもうやめよう~長期在院者の退院支援の政策と実践

講師 植田俊幸先生(鳥取県厚生病院・精神保健 福祉センター)、土田正一郎先生(俱知安厚生病 院)、須藤友博先生(群馬県立精神医療センター)、 工藤由佳先生(University College London)

内容 地域移行・定着支援やアウトリーチといった、退院支援や在宅支援の仕組みがあるにもかかわらず、病棟では問題ないのに長期入院している人や、症状が強く入院を続けるしかないと思えてしまう人がいます。「本当に退院支援を進めても大丈夫なのか」と職員が心配して、支援が進まない状況に直面することもあります。本セミナーでは、職員との信頼関係が成立せず、単独の散歩さえ許可されていなかった方が、地域生活を実現するまでの過程を、主治医と本人それぞれの立場から紹介いたします。参加者がズームのブレイクアウトルームに分かれて感想や意見を話し合う時間も設けており、退院支援に関する気づきを深めるセミナーとなっています。

研修セミナー2 12月11日 11:10~12:40

テーマ 精神障害をもつ人の地域生活支援の創り方 ~できるを増やすと精神科医療の役割は変化する~

講師 門屋充郎先生(NPO 法人 十勝障がい者 支援センター)

内容 1970 年秋、3 精神病院の複数の精神科医 と PSW は『社会精神医学』の抄読会を開いた。 そこから実践理念を共有。その後精神科医と PSW は地域訪問支援を 20 年以上実施、事例ごと に本人の望む生活支援とそれぞれの役割を確認 しながら『人』中心の生活支援を展開した。一般 社会資源の活用と精神保健福祉医療、官民協働等 の創意工夫は完結型診療圏域の 6 精神科病院 1,012 庄は 4 精神科病院 376 床 4 クリニックと なった。理念の共有と生活支援中心の展開方法を 振り返る。

研修セミナー3 12月11日 13:00~15:00

テーマ リカバリーカレッジを共に創造する

講師 坂本明子先生 (久留米大学)、栄セツコ (桃山学院大学)、他

内容 リカバリーカレッジは、精神保健サービスのリカバリー志向への変革としてイギリスで誕生しました。その特徴は、教育的アプローチで個人のリカバリーに役立つ講座を開講していること、専門職と精神疾患の経験者がコ・プロダクションで、運営、企画、実践していることなどです。今回は、フィデリティ(忠実度)を含めたリカバリーカレッジの概要および各地のリカバリーカレッジの実践をピアサポーターと共にご紹介します。学び合う場をどのように創っていくか、皆さんと一緒に考えるセミナーです。

研修セミナー4 12月11日 (時間は未定です)

テーマ 研究法入門

講師 安西信雄先生(帝京平成大学)、安保寛明 先生(山形県立保健医療大学)、半澤節子先生(自 治医科大学)、松田康裕先生(大阪精神医療セン ター)

内容 学会員の皆さんの臨床実践の中での気づきや問題意識を育て研究へ発展させる支援、さらに実践報告レベルの発表を「研究」レベルに高め

る支援について学んでいただきます。今回は3回シリーズの2回目で、研修の内容は下記の通りです。

第1回目(2022年10月1日より2か月間動画を配信)の研修を受けて、参加者が事前に臨床疑問を、PICO/PECOの形に整理し、リサーチ・クエスチョンを作成したうえで、当日は講師と議論したり、助言を受けたりします。



07/ お知らせ

会員情報の改訂および会員アンケートの実施について

日頃より、会員の皆様におかれましては、本会の活動へのご協力ありがとうございます。

さて近年、会員にお送りしている学会誌やニューズレターが学会事務局に戻ってくる件数が減らない状況が続いています。また昨今の社会のデジタル化に伴い電子メールでの情報発信なども強化したいと考えております。そのためには会員情報を更新する必要があり、この機会にあわせて会員の皆様の学会に対するニーズや希望についても、直接伺いたいと考えました。

そこで今年度、会員情報の改訂および会員アンケートを実施します。

年内に会員情報の改訂とアンケート実施のご案内、会員情報の改訂のための用紙、アンケート用紙、返送用封筒を全会員に郵送でお送りします。また会員情報の内容の更新とアンケートの回答は学会のホームページ上でも入力できるように準備しています。「用紙の返送」、「ホームページ経由での回答」のいずれかを選んで、学会に情報をお寄せください。

12月10日、11日の群馬オンライン大会ではアンケートの中間報告を実施する予定です。

多くの会員のみなさんのご協力をお願いします。

精神障害者リハビリテーション学会学会長、総務・企画委員会委員長 池淵 恵美

学会ロゴマークの公募について

学会の発信力向上のためロゴーマーク作成プロジェクトチームを立ち上げて、学会員を中心に学会 ロゴマークの公募にむけた準備を進めております。詳細は 11 月頃にはお知らせできると思いますの で、ぜひ応募をご検討いただけると幸いです。

広報委員会

News Letter

VOL.60

2022年09月発行

日本精神障害者リハビリテーション学会

【事務局】

〒115-8560 東京都北区赤羽台一丁目7番11号

東洋大学ライフデザイン学部 WELLB HUB-2 20901 研究室(吉田研究室)

https://japr.jp Mail:japr.jimukyoku@gmail.com